

令和6（2024）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修⑤ 実施報告

実施日：令和6（2024）年9月3日（火）

6月から始まった「家庭教育支援プログラム指導者研修」が、全5回の日程を終了しました。最終回は、2回目となるファシリテーター演習を行いました。

○ グループワーク「家庭教育支援プログラムファシリテーター演習②」

総合教育センター職員
教育事務所ふれあい学習課職員

【午前の演習】

第4回の「親学習プログラム」をファシリテートしたグループごとに、指定された「思春期版家庭教育支援プログラム」の再構成を行いました。各グループとも、最初のファシリテーター演習を通して得た気付きを生かしつつ、思春期版プログラムのねらいに迫るためにどのようなファシリテートをすればよいかについて、具体的・効率的に検討を進めました。その様子からは、共通の目的に向けて協力し、高め合う「チーム」としての雰囲気が感じられました。



【午後の演習】

本日の午前中に再構成した「思春期版家庭教育支援プログラム」のファシリテーター演習を行いました。

各グループは、前回行った演習での成果や気付きをプログラムに盛り込み、参加者が「自分事」として考えることができるよう提示資料をアレンジしたり、和やかな雰囲気の中で話し合いができるよう言葉かけを工夫したりしていました。プログラム実施後は、グループごとに良かった点やどのようにするともっと良くなるかを振り返ることで、今後の活動に生かせる気付きを得ることができたようです。

受講者は、2回のファシリテーター演習を通して、「家庭教育支援プログラム」の活用の仕方について学びを深めたり、ファシリテーターとしての知識や技術を高めたりすることができました。



閉講式では、受講者に修了証が授与され、5日間の研修が無事終了しました。研修を修了した皆様には、研修で得た知識や技術を生かし、地域における「家庭教育支援プログラム」指導者として今後活躍することを期待しております。

☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ファシリテーターを行う中で、参加者の様子を見ながらねらい等を明確にして行うこと、時間配分等もその時の様子で対応していくことの大切さを感じました。
- ・演習を通して、時間配分、流れ、場の雰囲気作りなど、実際に行うことで大切なことだということが分かりました。これから行われる就学時健康診断で、今日まで学んだことが新たなチームの人たちとできるよう、皆さんと話し合って、どのように進めていくか役割分担なども決めて行うことができるようにしたいです。
- ・参加者の方への声かけの難しさとテーマを自分自身でしっかり理解することの大切さに気がきました。参加者の皆さんに合わせて、臨機応変に対応していきたいです。
- ・プログラムを実際に行うことで、ファシリテーター自身の学びになると思いました。たくさんの方々のおかげで、多くのことを学べたと感じています。
- ・グループの皆さんにいろいろ教えていただいたり、意見交換をしたりしながら演習ができたことは、大きな学びになりました。場数を踏むことの大切さが分かりました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp